岡山県
2020年　秋号　101

せいきょう連ニュース

岡山県生活協同組合連合会　TEL：086-230-1315　HP：http://okayama.kenren-coop.jp/

特集　新型コロナウイルス感染症の影響の中、各会員生協では、さまざまな取り組みや活動の工夫、対策に取り組んでいます。

おかやまコープ

「支える人を支えよう！」緊急支援募金を贈呈

新型コロナウイルス感染拡大による影響で、子どもやその家族を巡る生活課題が深刻化するとともに、子どもたちを支えてきた人や団体も活動継続が困難な状況となっています。そんな状況を受け、おかやまコープでは6月29日～7月19日まで「支える人を支えよう！」緊急支援募金に取り組み、組合員から温かい気持ちのこもった募金が寄せられました。合計750万円の募金は、社会福祉法人岡山県社会福祉協議会、特定非営利活動法人フードバンク岡山、社会福祉法人岡山県共同募金会の3団体へ贈呈されました。

9月8日オルガ本部にて開催された贈呈式では、おかやまコープ平田昌三理事長から目録が手渡され、「組合員一人ひとりの募金の積み上げが少しでもお役に立てればと思っています」とあいさつしました。

店舗に設置された募金箱

岡山県社会福祉協議会の髙山科子副会長より
(写真中央)
「新型コロナウイルスの影響による失業など、生活課題を抱える世帯が増えています。組合員の皆さんの思いをしっかりと受け止め、募金を有効に活用していきたいと思います」

フードバンク岡山の糸山智栄理事長より
(写真右から２番目)
「たくさんの思いがつまった募金や食品をうまく調整し、つないでいく役割が私たちフードバンクにはあると思っています。この活動をずっと続けていけるように、募金を活用したいと思います」

岡山県共同募金会の森晃朗常務理事より
(写真右から１番目)
「コロナ禍において日常生活に困難を抱える人を支援していくという同じ方向を向いて活動していることを心強く思っています。地域や地域福祉の中で、困りごとに対して募金を活用していきたいと思います」

岡山県より「ダメ！コロナ差別」啓発キャンペーンのお知らせ

新型コロナウイルス感染症の感染者や医療関係者、またその家族等への誹謗中傷や偏見、差別が、県内においても発生しています。新型コロナウイルス感染症は、誰もが感染する可能性があります。また、コロナ差別は症状のある人の受診を遠ざけ感染拡大にもつながります。

私たちが戦う相手はウイルスそのものであり、人ではないことを周知し、県民一人ひとりが思いやりと優しさでつながり、誹謗中傷や差別は絶対にしない「ダメ！コロナ差別」啓発キャンペーンを市町村や関係団体等と連携し実施しています。

おかやまコープ

「ネパール視察報告会」をオンラインで開催

9月4日、久米センター（津山市）で「ネパール視察報告会」が開催され、美作エリアの組合員さんなど17名が参加しました。

おかやまコープが支援するAMDA社会開発機構は、6カ国で貧困軽減と健康増進のための支援活動を行っています。その中で、ネパールはアジアで最も貧しい国のひとつで、5歳未満児の死亡率の高さなど、さまざまな支援が必要とされています。

当日は、報告会場の久米センターとAMDA社会開発機構本部事務所（岡山市北区）、AMDA社会開発機構ネパール事務所をオンラインでつなぎ、報告等を行いました。

2月に、同国でのAMDA事業を視察した萩原美江さん(美作エリア理事)の報告に続いて、ネパールの奥田鹿恵子さん（AMDA社会開発機構現地事業統括代理)から、コロナ禍の現地の様子を報告、意見交流の時間も設けられ、参加者一人ひとりから奥田さんに向けて質問や感想が寄せられました。奥田さんは、ロックダウンが長引き気落ちされた様子でしたが、組合員一人ひとりから励ましの言葉に「大変感激し、もう少し頑張ろうと元気が出た！」と感想をいただきました。

オンラインでの行事開催は、コロナ禍で今後の取り組みにつながる企画となりました。

現地ネパールとオンラインでつないだ報告会

岡山医療生協

岡山医療生協の「リモート班会」「YouTube作成」

新型コロナウイルス感染予防のため、岡山医療生協の活動も３密を避け、参加者の状況を確認し、感染対策の準備をするなどいろいろ気をつけて行っています。そんな中始めているのが、リモート班会やYouTubeの作成などインターネットの活用です。

岡山医療生協のリモート班会とはインターネットを使い、いくつかの会場で同時に班会を開催することです。一人の講師で複数の会場、参加者の分散、他班（支部）との交流など、さまざまなメリットが考えられます。

画面からかたりかける講師（常山支部リモート班会）

参加者と iPad のカメラに向かって話をする講師

常山支部での班会は２会場で、常山支部の３つの班が参加して開催し、好評でした。この時はさらにもう一会場医療生協本部からも髙橋理事長が特別参加し、参加組合員のみなさんに増資のお礼や挨拶も行いました。

また、岡山医療生協では「おうち時間を応援」企画として「離乳食の作り方」「スッキリはればれ体操」「あいうべ体操」などの動画を独自にYouTubeへアップし、ホームページに掲載、組合員さんのみでなく、一般の方にも見られるようにしています。

岡山県学校生協

「おうちで育休カフェ2020」に参加

学校生協では年度当初より、新型コロナウイルス感染症対策のため、学校を訪問する事業を自粛し、文書での案内を中心としてきました。そのため、お互いの顔の見える活動が減少していましたので、このたび、岡山県教職員組合の「育休カフェ」に参加しました。

この取り組みは育休中の教職員を対象に、育児や保活、学校現場への復職のための情報提供や「おしゃべりタイム」を行うもので、例年県内2～3会場で行われています。

今年は「おうちで育休カフェ2020」と題して、オンラインにて開催され、学校生協からは生協の仕組み、組合員のメリットの紹介をしました。

倉敷医療生協

コロナ禍でも続く支え合い活動

コロナ禍の影響で、人がつどう場が減っています。サロン活動や食事会などができなくなり、家から出る機会が減り、「心と体の健康にとって不安」「相談事ができなくて困った」などの声が聞かれる中、笠岡支部の港の家班の組合員を中心に、毎週火曜日に支え合い弁当をつくり、ひとり暮らしの高齢者が受け取りに来た際に、健康のことやくらしの困ったなどの情報を交流しています。

コロナに負けない！ おうちで平和行進

笠岡市の漁協の皆さんと平和行進

例年東京から広島に向けて、多くの住民が参加し隊列をつくり取り組まれてきた国民平和大行進ですが、今年は新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、「おうちで平和行進」として平和への思いをメッセージにした写真をSNS上にアップしてつなぐ形の平和行進に取り組みました。身近な人々に呼びかけ、新しいつながりもつくりながら行進しました。

岡山大学生協

新型コロナウイルス感染症対策/通常店舗と受験生対応

岡山大学では政府の緊急事態宣言発出に伴う対応として、4月18日より学部生・大学院生の登校を禁止する措置が取られました。岡山大学生協でも大学当局からの休業要請を受け、4月19日から5月21日までの約１ヶ月間にわたり津島・鹿田両キャンパス内のショップ５店舗と、食堂５店舗全てを休業することとなりました。また4月17日から第１学期の「教科書販売」を開始したばかりでしたが、急遽、対面による販売を中止し、Web注文による約5,000件の教科書すべてを宅配で発送する対応に追われました。5月22日からは大学への入構規制も緩和され、店舗の営業も再開されましたが、大半の講義がオンラインで実施されたり、サークル活動などの課外活動の規制もあり、店舗の利用客数は前年同期の60%程度にとどまっている状況です。10月から第３学期の講義が始まりますが、当面はオンライン授業が継続される予定で、店舗の利用客数が元に戻るのはまだまだ先の事になりそうです。

ビニールシートを設置したショップカウンター

対面座席を避けて席を間引いた食堂ホール

一方で2021年度の受験生・新入生を迎える対応も既に始まっていますが、大学の入学試験も受験生の感染症対策を最優先に考え、今年度は各受験日当日の保護者などの大学構内への立入りを禁止する予定となっています。例年大学生協では受験日当日に受験生に同伴する保護者を対象とした「入学準備説明会」を学内で実施していましたが、今年はこの説明会もオンラインで実施することになり、8月から各月数回ずつライブ配信による説明会を実施する予定です。

受験生向け「オンライン入学準備説明会」

津山医療生協

YouTubeでの動画配信を計画中

津山医療生協では、班会が開催しにくい状況がある中、また、これから寒い時期に向けて新型コロナウイルスがさらに広がりを見せて、実際に班会が開催できない状況になった場合も見据え、YouTubeでの動画配信を計画しています。まずは10月頃公開を目指し、津山らしい歌詞の入った音楽とともに、班会で大活躍中の津山医療生協健康体操に続く、新たな体操を作成中です。それに先立ち、スマホやインターネットの使用状況などのアンケートを実施予定です。

新しい体操を練習中

岡山県労済生協（こくみん共済 coop 岡山推進本部）

新型コロナウイルス感染症対策

お客さまと職員の健康・安全を最優先し、共済ショップ窓口の営業時間を変更してきました。9月からは10：00～16：00とし、窓口ブースや待合席での距離を空けるなど、ソーシャルディスタンスの確保を行っています。テーブルや備品も都度消毒を実施し、対応するスタッフも都度交代させています。協力団体やお客さまへの訪問活動は原則自粛し、郵送等での非対面の対応を実施しています。

職員は手洗い・うがい、検温、マスク着用だけでなく、感染リスク分散のため、公共交通機関での通勤者については時差出勤を実施しています。また、職員のプライベートにおける不要不急の外出自粛を要請し、生活協同組合職員として3密を避ける節度を持った行動を促しています。

グリーンコープ生協おかやま

感染予防対策の徹底

新型コロナウイルス感染症に対して全員で感染予防を徹底しています。

組合員に少しでも安心して利用していただけるように、全スタッフの体調管理の徹底、マスクの着用、センター・キープ&ショップ・配送車両の定時消毒を行っています。

また、職場においても従業員の感染リスクを抑えるために就業場所の分散、テレワークの実施、会議のリモート化、学習会等のオンライン開催を実施しています。

三井造船生協

新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症が日本国内で2020年1月15日に初めて確認され、社会活動や日常生活などに非常に大きな影響を及ぼしました。生協の事業運営でも、組合員皆様のくらしに必要な商品をお届けする使命がある従業員へのマスクの不足や、消毒液の確保など非常に苦労しました。また、家庭会組合員活動やサークル活動、さまざまな行事などについても中止が相次ぎました。店舗事業、宅配事業、葬祭事業、利用事業(福祉介護、観光、リフォーム他)組合員ニーズに則った事業展開の中でコロナウイルス感染症対策としては、基本的な対策を繰返し実践しています。

ソーシャルディスタンスのご案内

店舗事業

店舗事業

現金の受渡しをトレーに変更

店舗事業

備品等の消毒作業

福祉介護事業

３密のご注意の掲示

葬祭事業

会葬者に感染防止消毒のお願い

葬祭事業

【コロナ禍での取り組み】

①うがい、手洗いの励行、マスクの着用、規則正しい食事、睡眠に注意し、就業中のマスクの着用。（熱中症対策では臨機応変な対応可）
②３密対策として、店舗・事務所等窓や入口・ドアを開き定期的に換気をする。消毒液の準備、対面販売をするレジなどに感染防止のビニールシートの装着。レジ対応時における手袋の着用、現金の手渡しから、トレーによる授受に変更し、ソーシャルディスタンスとして、レジ待機時に足跡マークを床に貼り、適度な間隔を確保しました。
③葬祭事業では葬儀に来られる方にマスクの着用を呼びかけています。マスクがない方には生協よりマスクをお渡しして着用していただいています。
④福祉介護事業では定期的な機材の消毒や、『お盆２週間前に都会から帰省されたご家族がいるご利用者様にはデイサービスを中止させていただきます。』というご案内を事前に連絡して感染防止に努めました。
⑤従業員は体調に留意し、体温が37.5度以上ある場合には出勤の停止、また、従業員の家族に前述のような症状がある場合は部署長に連絡し判断を仰ぎ、その情報は本部役員に逐次報告され情報の共有化をしています。出張は緊急事態宣言下では全て禁止としました。その後緩和されました。
⑥コロナ禍の状況下で『在宅勤務取扱規程』を作り在宅勤務ができる体制を整えました。

就実生協

Web版　入学準備説明会

毎年、入学前の新入生・保護者の不安解消と入学準備をサポートするために12月～３月にかけて複数回行っていた入学準備説明会ですが、新型コロナウイルスの影響で、3月からは急遽、Web版として開催を行いました。

急ピッチの準備でしたが、対面できないからこそ明るい表情や温かい言葉遣いを意識して、参加者に寄り添える雰囲気作りなどの工夫をしました。Web版のため気軽に参加しやすいということもあり、昨年よりも100組以上多くの方に参加いただきました。

岡山県生協連第61回通常総会が開催報され、すべての議案が可決承認されました。

岡山県生協連第61回通常総会が６月30日(火)にオルガホールで開催されました。今回の通常総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、代議員には書面議決の行使をお願いし、実出席は、会場に近い会員生協から代表1名の出席とさせていただくなど、開催規模を縮小し、運営を簡略化し時間短縮で開催しました。

おかやまコープの徳山雅昭代議員が議長に選任され議事を進行し、総会運営委員として、県学校生協の石田寛明代議員、理事会から阿部孝司理事が選任されました。近藤清志会長理事より、新型コロナウイルス感染症が世界中に広がり、私たちのくらしや事業に大きな影響を及ぼしている中、会員生協では厳しい環境の中で、命とくらしに関わる重要なライフラインとしての役割を発揮していることへの感謝や経済の落ち込みや今後も厳しい状況が予想され、様々な課題が提起される中、改めてSDGsの取り組みの重要性を感じていることなどにふれた開会の挨拶がありました。そののち、岡山県知事や日本生協連会長および全国の生協連、各生協、各団体からのメッセージの紹介がありました。総会運営委員長より、代議員定数46名中46名（実出席5名、書面出席39名、委任出席2名）の代議員の出席があり、11会員中11会員の出席で総会が成立している報告がありました。続いて、榊誠司事務局長より第1号議案から第4号議案まで一括して提案があったのち、岡本秀雄特定監事より監査報告がありました。最後に、第1号議案から第4号議案の採決を行い、全議案が賛成多数で可決承認され、総会を終了しました。

議案の採決結果は以下のとおりです。

第1号議案	**2019年度事業報告書および決算関係書類承認の件**	**賛成多数で可決**
第2号議案	**2020年度事業計画および予算決定の件**	**賛成多数で可決**
第3号議案	**規約の一部変更の件**	**賛成多数で可決**
第4号議案	**役員補充選任の件**	**賛成多数で可決**

岡山県へ「要望書」を提出しました。

県生協連では、県行政に対して、生協への理解を広めるとともに、県民のくらしを守り、生協の活動の前進に向けた県への要望を毎年取りまとめ、県行政との定期懇談を行っています。

今年度も岡山県への「要望書」を、8月27日(木)に提出しました。今年度は、①新型コロナウイルス感染症拡大への県民の不安を取り除くことや県民の命と健康を守ることを最優先に、医療体制の崩壊を防ぎ、医療の継続に向けた要望を中心にし、そのほか、②災害対策、災害支援、③岡山県の3つの主要な計画づくりについて、④県内農林水産業の支援と育成、の4つのテーマに関する要望としました。

この日は、岡山県くらし安全安心課倉森隆課長、藤原真由美総括参事、藤原健次副参事に対応していただき、「要望書」の内容について説明を行いました。この「要望書」については、10月30日(金)に、県行政との定期懇談会を開催し、要望に対する岡山県の回答の説明を受け、意見交換を行う予定です。

「要望書」を受け取る倉森隆課長(左)

「ヘルスチャレンジ2020」に参加しましょう

岡山県内で
毎年1万人前後
の方が参加！

どなたでも
参加できます！
結果報告だけでも
OK！

6つの
「健康づくり」
コースから
1つを選んでね

「ヘルスチャレンジ」は、生活習慣を見直すことで、健康寿命を延ばすことや健康づくりのきっかけに、誰もが気軽に取り組める企画として、2005年から各医療生協で取り組みが始まりました。

2012年からは、県生協連が主催して、県内の医療生協を中心に各会員生協全体で取り組んでいます。2019年からは、さらに、県内のJA女性組織協議会など、他の協同組合の皆さんにも参加の呼びかけを広げています。

ヘルスチャレンジのパンフレットの無い方は ヘルスチャレンジ2020 検索

11月30日までに、30日間チャレンジして、結果報告を送ってください

ヘルスチャレンジ 2020 に親子で取り組む倉敷医療生協の組合員の皆さん